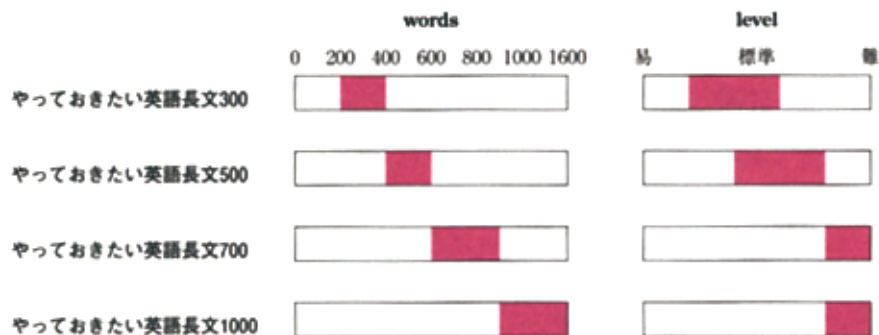


はじめに

大学の入試問題では、読解問題が最も大きな割合を占めていますし、その割合はますます高くなっています。読解問題を解けるようにすることは、受験を突破するうえで避けては通ることができません。それでは、読解問題を解くためには、どのような力が必要なのでしょう。語い力に加えて、一文一文の構造を正確に捉え、内容を把握する力が必要です。さらに、複数の文が集まって文章が構成されている以上、文と文のつながり、すなわち文脈を読み取る力も必要です。また、今日的な話題が出題されることが増えています。そうした話題について知っておくことも、内容を理解するためには大切です。

こうした力をつけるためには、何よりも良い英文を読み、良い問題を解くことです。そこで、これまでに出版された問題の中から、英文の長さや難易度を基準に繰り返し読むに値する英文を選び、4冊の問題集にまとめました。設問は、ある文章に対して問うべきこと—内容の理解と英語の理解—という観点から、ほぼ全面的に作り変えてあります。

やっておきたい英語長文700は、600語から900語程度のやや難から難レベルの英文15題で構成されています。難関大学の入試を突破できるゆるぎない読解力の完成を目指します。また、よく出題されるテーマが網羅されるように英文を選び、**Topic**として背景知識の解説も加えてあります。



本書が皆さんの想いの実現に向けて、役に立つことを願ってやみません。それでは、問題1にトライしてみましょう。

最後に、本書を改訂するにあたり、Kathryn A. Craft 先生に英文校閲を行っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

著者記す

本書の使い方

- 1 問題には語数と標準解答時間を示してあります。標準解答時間を目標に問題を解いてください。
- 2 解説には、解答と設問解説、要約、構文・語句解説があります。設問解説を読み、解答を確認してください。設問解説中の第1・2段落第5文といった表記は、構文・語句解説の番号に対応しています。
- 3 構文・語句解説では、訳例と設問解説で触れなかった、構文および語句の解説があります。設問以外の箇所理解できなかつた部分を確認してください。
- 4 構文・語句解説では、問題文から下線を省き空所を埋めた形で英文を再録してあります。英文を繰り返し読んでもらいたいからです。こうすることが、速読の練習にもなりますし、語いの定着にもつながります。また、このときは、英文の構造よりも、内容・論旨を追うことを心がけてください。確認のために要約を活用してください。
- 5 英文を読む際には、音読とリスニングを組み合わせることで、リスニング力も強化できます。英語のネイティブ・スピーカーが読み上げた音声を用意されていますので、利用してください。

音声は、パソコンやスマートフォンから下記の URL にアクセスして聴くことができます。QR コードからもアクセスできます。

<https://www.kawai-publishing.jp/onsei/01/index.html>



・ファイルは MP4形式の音声です。再生するには、最新版の OS をご利用ください。

解答

- 問1 近い将来多くの人々が職を失うという見方と、自動化により新たな仕事が生まれ誰もが今以上に繁栄し続けるという見方。(55字)
- 問2 産業革命が始まって以来、機械のせいで1つの職が失われるごとに、少なくとも1つの新たな職が生み出され、平均生活水準は劇的に高まってきた。
- 問3 ウ
- 問4 食品から結婚相手に至るまであらゆることについての私たちの選択は、謎めいた自由意思ではなく、むしろ一瞬のうちに確率を計算する何十億ものニューロンに起因することがわかった。
- 問5 (5a) イ. far from (5b) エ. no more than
- 問6 An AI equipped with the right sensors could do
- 問7 ウ

▶▶▶ 設問解説 ◀◀◀

- 問1 直前の第1段落第2文に「機械学習とロボット工学がほとんどすべての職業を変えろ」という点では、だいたい意見が一致している」と述べられ、下線部(1)を含む第3文では、「しかし」と逆接の副詞で始まり、「相反する見解」があることが述べられている。続く第4文には「わずか10年か20年のうちに、何十億もの人々が経済的に余剰人員となると考える人もいる」ことが、また第5文には「長期的に見ても、自動化が万人に新たな職を生み出し、一層の繁栄をもたらし続けると主張する人もいる」と、相反する見解が具体的に述べられている。したがって、この内容を制限字数内でまとめる。
- conflicting「相反する」 view「見解」
- 問2 for every ... was created と the average ... increased dramatically という2つの節が and で結ばれている。前半の for は「～に対して、～につき」という意味。lost to a machine は every job を修飾する過去分詞句。
- the Industrial Revolution「産業革命」 at least「少なくとも」
 create「を生み出す」 average「平均的な」 standard of living「生活水準」
 increase「高まる」 dramatically「劇的に」
- 問3 下線部(3)は「身体活動の分野と認知活動の分野以外に、人間が常に確実な優位

を保つ第3の活動分野があるのかについてはわからない」という意味。下線部を含む第3段落の最初から文脈をたどると「人間には身体能力と認知能力の2つの能力があり、かつては身体能力の面で機械が人間と競い合っていたが、認知能力では人間が優位を保っていた。だが、自動化が進み、認知技能においても、AIが人間の感情の理解を含めて、人間を凌駕し始めている」と述べられている。したがって、下線部は「人間がAIをしのぐ別の分野があるのか今のところわかっていない」ということになるので、正解はウ。

ア、「AIが身体的および認知能力において人間に勝る能力を持つ、ということをお我々は確信できない」

イ、「人間は身体能力と認知能力の両方を使うことで安全な立場にとどまることができる」

ウ、「人間は今のところAIをしのぐことのできる活動分野を見つけていない」

エ、「AIが人間に勝つことのできる活動分野をお我々が見つけるのはとても難しい」

field of activity 「活動分野」 beyond A 「Aを超えて」 physical 「身体的な」
 cognitive 「認知の」 retain 「を保持する」 secure edge 「確実な優位」

問4 It turns out that 節は「…だとわかる、判明する」という意味。節内は S result from A 「SはAから結果として起こる、Aに起因する」が用いられ、from A の部分に not X but Y 「XではなくY」が用いられている。なお、from food to mates は everything を修飾する前置詞句で、that calculate probabilities within a split second は billions of neurons を修飾する関係代名詞節。

choice 「選択」 mate 「結婚相手」 mysterious 「謎めいた、不可解な」
 free will 「自由意思」 rather 「むしろ」 billions of A 「何十億ものA」
 neuron 「ニューロン、神経単位」 calculate 「を計算する」 probability 「確率」
 split second 「ほんの少しの間」

問5 空所(5a)を含む文は「人間の脳の生化学的アルゴリズムは完璧には(5a)こともなかった」という意味。直後の第6・7文には「それは都会のジャングルではなくアフリカのサバンナに適した経験則、近道、時代遅れの回路に頼っている。優秀な運転手、銀行家、弁護士でさえ、ときには愚かな過ちを犯すことがあるのも不思議ではない」と述べられている。したがって、「人間の脳の生化学的アルゴリズムは完璧には程遠い」ことがわかる。正解はイ。

空所(5b)を含む第7段落第2文以降の文脈をたどると、「神が創造した人間の精神がつかさどる感情や欲求をコンピュータが理解できるはずがないのだから、コンピュータが人間の運転手や銀行家に取って代わることはできないと考えら